

2 酒米在来品種の特徴

ねらいと成果

最近、全国的に、明治から昭和の初期に栽培されていた酒米や食用米品種を復活させ、日本酒造りに利用するケースが増えており、在来種など昔の酒米品種が注目されている。酒米試験地では、全国の酒米品種182種と、食用米や新形質米品種など200種の合計382種の遺伝資源を収集し、特性調査を行った。そのうち7品種が実際に利用されている。

内容

供試品種は表に示すとおりである。酒米在来品種は、「白玉」、「伊勢錦722号」、「都」、「雄町」、「八反草」、「山田穂」、「野条穂」の7種で、これらの品種は育成の由来が異なる在来種である。「渡船2号」、「新山田穂1号」、「但馬強力」は、純系淘汰法により再選抜された品種である。「神力」と「早大関」は食用米品種である。

酒米在来品種は、ほとんどが「山田錦」と同程度か、または、より遅い晩生であった。草型は「渡船2号」を除いて、長稈の穂重型であった。「渡船2号」は、短稈で穂数が多い。「渡船2号」は品種名が異なるが、特性から「山田錦」の交配母本である「短稈渡船」と同じ品種と考えられる。

芒の発生は、「雄町」と「渡船2号」で多く、長

い。それ以外の品種は無芒や極稀で少なかった。脱粒性はほとんどの品種で易であった。また、食用米の「神力」も極易であった。千粒重は、「白玉」、「都」、「山田穂」が24g前後で、「伊勢錦722号」は28.6gであった。それ以外の品種は26g程度で、「山田錦」よりやや小さかった。心白の発現は、「渡船2号」、「山田穂」が30%弱と少なく、それ以外の品種も、「八反草」の69%を除いて、40~50%で「山田錦」よりやや少なかった。心白の大きさは、「雄町」と「渡船2号」は大きい心白がやや多いが、それ以外の品種は小さい心白がやや多かった。腹白米の発生は全般に多かった。

普及上の注意事項

供試品種の中で「渡船2号」、「山田穂」、「新山田穂1号」、「但馬強力」、「神力」、「早大関」は、醸造用玄米の産地品種銘柄に指定され、酒造りも行われている。また、「野条穂」は市島町で実用化されている。

在来種は、長稈で倒伏しやすく、いもち病にも弱いので、栽培上は施肥法や病害虫の発生に留意する必要がある。

池上 勝 (農業技セ・作物部)

表 供試品種の取寄先および特性

品 種 名	取 寄 先	出穂 期 月日	成熟 期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/株	倒伏 程度 0-10	芒の 多少	芒の 長短	脱粒 性	千粒 重 g	心白 多少 %
白玉	生研(7846)	9. 1	10. 6	110	21.4	11.3	2.0	無	—	易	23.8	57.0
伊勢錦 722 号	三重県	8. 30	10. 15	125	22.5	10.1	4.3	極稀	極短	易	28.6	47.8
都	生研(8224)	8. 31	10. 6	100	21.2	12.0	1.5	稀	短	やや易	23.0	42.0
雄町	岡山県	9. 2	10. 21	115	22.8	11.3	5.3	多	中長	易	26.6	53.4
渡船 2 号	生研(10484)	8. 30	10. 14	96	19.5	20.7	4.9	中多	中長	易	26.8	29.3
八反草	京都大(68)	8. 20	10. 2	115	23.5	10.3	7.0	無	—	易	25.5	69.0
山田穂	京都大(132)	8. 29	10. 12	119	21.4	10.1	4.8	無	—	易	24.1	24.3
新山田穂 1 号	生研(10480)	8. 30	10. 15	121	21.1	10.8	4.6	極稀	極短	易	25.4	43.9
但馬強力	九州大(1544)	8. 24	10. 3	117	22.1	10.8	5.8	極稀	極短	難	26.2	53.8
野条穂	兵庫県	8. 23	10. 4	109	21.7	10.9	4.8	無	—	易	26.2	52.9
神力	生研(9916)	8. 31	10. 15	91	20.1	15.9	1.1	無	—	極易	26.5	20.5
早大関	京都大(758)	8. 25	10. 7	91	19.7	14.8	2.8	無	—	難	24.7	12.5
比) 山田錦	兵庫県	8. 29	10. 12	106	20.6	15.6	5.1	無	—	易	28.2	60.8

注) 取寄先の生研は(独)農業生物資源研究所を示す。また括弧の数字は、各取寄先での整理番号を示す。移植期は6月12~14日、手植えの1本植。施肥は基肥にN成分でa当たり0.4kgのみ施用。倒伏程度は0(無)-5(中)-10(甚)で示す。